

## 新津地区公民館運営審議会 会議概要

### 1 開催概要

- (1) 名称 第9期第1回新津地区公民館運営審議会
- (2) 日時 令和5年7月10日(月)午後3時30分
- (3) 会場 新津地区公民館502研修室
- (4) 出席者
  - ・委員(敬称略): 渡辺和典(議長)、皆川美穂子(副議長)、阿部正機、小原芳子、上村修、川瀬雅司、篠原真樹子、相馬真紀子
  - ・事務局: 【新津地区公民館】小林巧(館長)、今野誠、権平利江子、潮田憲幸  
【小須戸地区公民館】古川正利(館長)、桑原秀幸

### 2 議事・報告事項

- (1) 令和4年度事業報告について
  - ①新津地区公民館
  - ②小須戸地区公民館
- (2) 令和5年度事業計画について
  - ①新津地区公民館
  - ②小須戸地区公民館

### 3 概要(意見・質問事項)

- (1) 令和4年度事業報告について
  - ・両館とも、事業の館長評価はB(継続)が多い。この事業は力を入れたかったとか、十分やったとか、メリハリをつけてほしい。
    - (新津)公民館の体制や予算の確保を踏まえ、力を入れる事業を増やすためには、他の事業の見直しも必要になってくる。メリハリをつけるために、スクラップ・アンド・ビルドで検討していきたい。
    - (小須戸)4年度は新規事業が多かったので、それは次年度以降もやりたい。参加がほとんどないような事業以外は、廃止に踏み込むことは難しい。
  - ・新規事業について、どのように評価・感想をもっているか。
    - (新津)文芸協会や美術協会との連携事業による愛好者を増やすための講座は継続したい。所期の目的を達成した、または検証が必要なものはD(終了)としている。全体としては試行錯誤の中で行ったという印象がある。
    - (小須戸)「苔テラリウム」とか「いろえんぴつ」講座についてコロナ禍で、なかなか集まっての講座ができないとかが解消されてきた。新規事業で、活動協力員の提案や市生涯学習センターで活動している団体から紹介されて始めたものもある。
  - ・これだけ多くの事業を行うには、労力がかかると思う。ノルマなどの指導はあるのか。あきは未来フォーラムは良い内容だったが、参加者が少なかった。シニアライフ講座は、高齢社会にあって良い取り組みである。古典文学講座の発展的終了は理解できる。ハロウィンのイベントは興味深い、ランタンづくりは食育に

つながるか。全体的に食育関連の事業が少ない。

→（新津）家庭教育関係は、公民館全体で行っている。未来フォーラムは、広報のやり方として、SNS を利用したものも生かせるか検討したい。古典文学入門講座は、サークルの結成につながって次の希望者が加わるという、公民館の目指す役割ができたと考えている。

→（小須戸）ランタン用のかぼちゃは飼料用で加工しやすいものを使った。食育の分野では、健康教室を区の健康福祉課と一緒に実施しており、4年度は減塩や食育をテーマとして講演を行った。

- ・新潟市の LINE 公式アカウントに登録すると、各区の公民館事業のお知らせが来て、自分で探さなくても知ることができる。紙媒体とともに、SNS も活用してさまざまな人に情報を届けてほしい。
- ・事業に地域的な偏りがあるように感じる。自分の地区では、本年度公民館と話し合いをして一歩踏み出しているが、地域的なバランスが不十分と感じる。事業の広報についても十分行っているか。公民館が様々な取り組みをしていることは知っていても、学校で、コミセンで、相談・依頼ができることを知らない人がほとんどである。活動の広報はもちろんだが、「皆さまのお力になれますよ」という趣旨の広報をしてはどうか。

→（新津）コミ協や学校、地域教育コーディネーターと毎年お話をして、できることを考えている。特に重点的な地区を定めているわけではない。全区的な事業については、学校やコミセンを通じた広報の充実を考えていきたい。

- ・防災学習会の実施について感謝している。プログラミング教室などの事業について、学校は地域との連携に取り組んでいるので、地理的な利便性や施設・備品を含めて学校の活用も検討してほしい。

## （2）令和5年度事業計画について

- ・小須戸地区公民館の「文化協会サークル育成事業」は良い事業だが、どのようにPRしていくのか。

→（小須戸）こすど地区公民館報とチラシでお知らせする。小須戸文化協会から、高齢化やメンバー不足との意見があり、公民館として協力できることとして行う。参加希望者は公民館へ連絡いただき、そこから各サークルへつなげる。

- ・小須戸地区囲碁・将棋大会について、最近将棋界でスーパースターが出てきた影響はあるか。

→（小須戸）昨年度、囲碁は地元の人が優勝したが、将棋は他の区から参加した人が優勝した。

- ・中学生の人権教室は2年に1度の開催ということだが、区内の中学校を巡回するのか。

→（新津）市内8区を2つに分け、2年に1度秋葉区に依頼が来る。新津と小須戸で地区を決め、その後中学校に相談して実施校が決定する。

- ・様々な活動に予算がついているのか。大学との事業では、市の予算を使うのか。教育実習を含めて大学と連携することは有意義だと思う。

→（新津）人権教室などの委託事業や区づくり事業、青少年育成の関連事業などは公民館予算以外で実施している。公民館事業費自体はシーリングがかかって

いるので、スクラップ・アンド・ビルドが必要である。大学との経費負担は、ケースバイケースである。

→ (小須戸) 小須戸で行う大学との連携事業の経費は、大学側で賄われている。また庭木剪定では、県立植物園から講師を担ってもらっている。

• いろえんぴつとパステルの講座は、昨年サークル化するという話があったが、どうなったか。

→ (小須戸) サークル化について参加者と話をしたが、希望する人がやや少なく、もう少し待ってみることになった。